

秋のコンカツ♡アラカルト

☎ 社会福祉課 (☎65-6536)

KOHOKU カップリングバスツアー

長浜北商工会では、4年前からカップリングイベントを実施しています。これまでに10組のカップルが成立し、1組がご結婚されました。今年も楽しいカップリングイベントを開催しますので、ぜひご参加ください。

【と き】10月23日(日) 10時~16時

【ところ】JR長浜駅西口 集合

【対象】20歳~35歳の独身男女

【定員】男女各15人

※定員を超えた場合は抽選

【内容】湖北の名所散策およびレクリエーション

【参加費】男性4,000円 女性2,000円

【申込み】10月14日(金)までに氏名、住所、年齢を電話かメールで下記まで。

【問・申】長浜北商工会 担当 伊藤

☎82-5051 kohoku.bustour@gmail.com

(企画 北近江観光株式会社(高月町唐川))
(滋賀県知事登録第2-247号) ☎85-3330

恋するピワコン in 長浜

湖の見える広場で「キラめく恋」始めませんか。

婚活の講師が皆さんのコミュニケーションづくりのお手伝い。ピュッフェスタイルで食事やデザートを楽しみながら、たくさんの人たちと素敵な時間を過ごし、人生のパートナーを見つけましょう。成立したカップルには、抽選で豪華賞品が当たります!

【と き】11月12日(土)

15時~20時(受付14時30分~)

【ところ】北ピワコホテルグライツィエ(港町)

【対象】20歳~45歳の独身男女

【定員】男女各80人

※定員を超えた場合は抽選

【参加費】男性7,500円 女性2,500円

【締切り】10月31日(月)

【申込み】チラシの申込用紙をFAXで下記まで。長浜商工会議所ホームページからも申し込み可能です。チラシは下記までご連絡ください。

【問・申】長浜商工会議所青年部 担当 花澤

☎62-2500 FAX62-8001

http://nagahama-yeg.net/

本気の婚活ミニパーティー Part 2 主催:湖北地区結婚相談員連絡会

この出会いを大切にしたい

この出会いを明日へ繋げたい

そんなあなたを応援しています。

【と き】11月27日(日) 一部 10時~12時頃
二部 14時~16時頃

【ところ】長浜ロイヤルホテル(大島町)

【内容】自己紹介、デザート&トーク
カップリング発表など

【定員】一部・二部とも男女各10人

※定員を超えた場合は抽選

【参加費】男性4,000円 女性3,000円

※参加確定後のキャンセルは負担金がかかります。

【対象】一部 男性:30~39歳の独身の人

二部 男性:40~49歳の独身の人

※女性は、年齢制限なしの独身の人で、申込時に一部か二部を選択。男性は長浜市・米原市在住または在勤とし、女性は地域を問わず。

【申込み】①住所②氏名③生年月日④性別⑤職業⑥婚歴
⑦連絡先を直接または電話、FAX、郵送、メールで下記まで。女性は一部か二部を選択し、明記してください。

【受付期間】10月3日(月)~11月4日(金) ※必着

※詳細は市のホームページにも掲載しています。

【問・申】湖北地域農業センター(〒526-0065 公園町9-23)

☎62-4143 FAX62-4144

☒kohoku-nougyou@tree.odn.ne.jp



▲花火の陣屋(飛雲館)

夜空をドラマチックに彩る花火。空に山に湖に咲き乱れる光の華は、私たちを感動の世界へ誘います。花火に欠かせないものといえば火薬。そのルーツは古く、紀元前3世紀に古代中国で、火薬の原料となる硝石(硝酸カリウム)が発見されてからといわれています。日本人が初めて火薬と遭遇したのは、鎌倉時代に起こった二度にわたる元軍の来襲事件「元寇」の時、日本の武士団は、火薬を使った武器に苦戦を強いられました。それから約270年後の天文十二年(1543)、種子島に鉄砲が伝来、以降、鉄砲・火薬は日本の社会において大きな影響を与えることとなります。当時日本の刀鍛冶の技術は、すぐに鉄砲製作に生かせるほど優れていたため、鉄砲の生産は紀州(和歌山県)の根来・雑賀、和泉(大阪府)の堺、近江の国友(現在の長浜市国友町)など各地で飛躍的に伸びていきました。

国友では、鉄砲伝来の翌年には早くも鉄砲の生産をしたと『国友鉄砲記』にはあり、秀吉、家康の庇護のもとその地位を確立し、江戸時代初期には幕府直轄の鉄砲製造所として栄えました。しかし、平和な時代の到来とともにその注文も減り、鉄砲鍛冶たちは生活のためその技術を生かし、金工彫刻や花火製作に転向していきました。国友の花火師たちは、地元はもちろんのこと、請われれば県内、全国各地へと興行に出向きました。

宮部町でも、国友の近隣地であることから花火の愛好者が多く、「袋物」と呼ばれる花火細工の製造や打ち上げを楽しんでいたといえます。姉川河原では、花火の技を競い合う花火大会が開催され、花火の指令所や見物用の棧敷として「花火の陣屋」が置かれました。花火の陣屋は、正面が城門のような形をしており、三方に幔幕が張り巡らされ、門の外には高張り提灯が掲げられるなど、まさに「陣屋」の名にふさわしい偉容を誇ります。また天井には、花火の落下を防御するための網が張られていました。

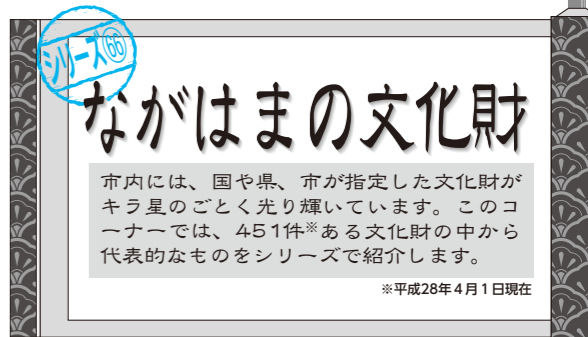
【問】長浜城歴史博物館 (☎63-4611)

現在、宮部町には、3基の花火の陣屋が伝わりまします。宮部町を西・北・東の3組に分け、各組に1基ずつ、「飛雲館」・「翁組」・「七星組」があります。各組とも構造に大きな違いはありませんが、付属品の一つひとつに独自の特徴が見られ、いわば組の威信を象徴するものでした。

河川敷に一斉に並べられた陣屋は、いやおうなしに雰囲気を感じ上げたことでしょうか。人々は酒を酌み交わしながら、花火見物をしたそうですが、花火は楽しみみの少なかった民衆の娯楽の一つであり、泰平の世に生まれた町人文化の象徴といえるのではないのでしょうか。

なお、江戸時代の花火は、黒色火薬のみの単色で光の弱い「和火」と呼ばれる種類のものでしたが、今のように色鮮やかな花火が作られるようになったのは、明治時代に化学製品が輸入されるようになってからです。日本の花火は、世界一と言われるようになり、現在ではアメリカを始めとする数十か国に輸出され、世界の夜空を彩っています。

ちなみに、国友町に四基ある花火の陣屋のうち、西組所有のもので長浜市指定文化財となっています。



長浜市指定文化財・有形民俗文化財

花火の陣屋

飛雲館・翁組・七星組 各1基

飛雲館・翁組 昭和56年2月19日指定

七星組 平成6年6月17日指定

所有者:宮部町自治会

戸時代初期には幕府直轄の鉄砲製造所として栄えました。しかし、平和な時代の到来とともにその注文も減り、鉄砲鍛冶たちは生活のためその技術を生かし、金工彫刻や花火製作に転向していきました。国友の花火師たちは、地元はもちろんのこと、請われれば県内、全国各地へと興行に出向きました。

宮部町でも、国友の近隣地であることから花火の愛好者が多く、「袋物」と呼ばれる花火細工の製造や打ち上げを楽しんでいたといえます。姉川河原では、花火の技を競い合う花火大会が開催され、花火の指令所や見物用の棧敷として「花火の陣屋」が置かれました。花火の陣屋は、正面が城門のような形をしており、三方に幔幕が張り巡らされ、門の外には高張り提灯が掲げられるなど、まさに「陣屋」の名にふさわしい偉容を誇ります。また天井には、花火の落下を防御するための網が張られていました。

「七星組」があります。各組とも構造に大きな違いはありませんが、付属品の一つひとつに独自の特徴が見られ、いわば組の威信を象徴するものでした。

河川敷に一斉に並べられた陣屋は、いやおうなしに雰囲気を感じ上げたことでしょうか。人々は酒を酌み交わしながら、花火見物をしたそうですが、花火は楽しみみの少なかった民衆の娯楽の一つであり、泰平の世に生まれた町人文化の象徴といえるのではないのでしょうか。